浜松南高新聞

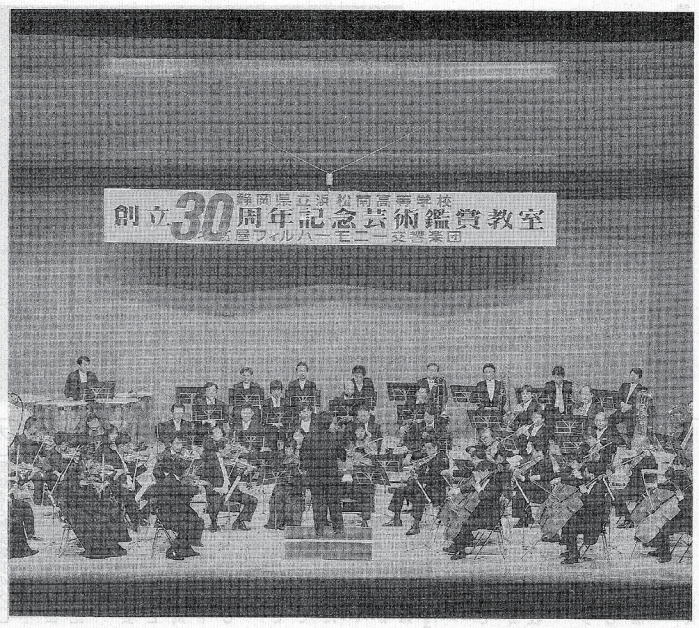
発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
TEL(053)441－1486㈹
FAX(053)442－0148

印刷
富士印刷株式会社
TEL(053)454－9165
FAX(053)454－9166

行事特集

# 青春奏づべし

## 創立三十周年記念
## 芸術鑑賞教室開催される




去る十一月二十五日（水）に創立三十周年を記念して市民会館で芸術鑑賞教室が行われた。

演奏は名古屋フェルハーモニー交響楽団、指揮は渡邊一正氏、曲は、ワーグナー作曲の楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲、チャイコフスキー作曲のバレー組曲「白鳥の湖」より七曲、ドヴォルザーク作曲の交響曲第九番ホ短調作品九十五「新世界より」の三曲であった。

開演前はざわついていたホール内も、演奏が始まってからは、みんな、力強くエネルギッシュな指揮と息の合った演奏に次第に引き込まれていったようだ。普段このような音楽を聴かない人達も、今までに一度は耳にしたことがあるような有名なメロディーもいくつかあった。

校長先生の挨拶から始まり、途中一度休憩をはさみ約二時間、心から音楽に感動した人もいれば、慣れない音楽を聴いて何となく落ち着かない人もいただろうが、いずれにしてもオーケストラを目の当たりにした感動は忘れがたいものであっただろう。

この芸術鑑賞教室は、芸術に親しみ、勉強で疲れている頭を癒し、心を豊かにするまたとない良い機会になったようだ。

## 論説

### 高校生もワッショイ!!

毎年五月の連休になると浜松はまつり一色になる。大凧が次々と空に舞い上がり、夜は街に御殿屋台があふれ、人々は練り歩く。そんな浜松まつりの歴史は室町時代から、引馬城主であった飯尾豊前守に長子義廣公が生まれた時、近くの入野村の住民が大凧に「義廣」の名前を入れ、城中で高々と上げたのが始まり。つまり、浜松で初めて凧が上げられたのは入野町なのだ。それで入野の凧には今でも、「義廣」の二文字が大きく入っている。これがもとになり、やがて現在の浜松まつりにまで発展していった。

その浜松祭りに来年から高校生の参加が認められた。もちろん条件はついているが、三十年ぶりの高校生参加になる。

これまで高校生がまつりに参加できなかった理由は主に、高校側の飲酒、喫煙などの非行の心配だ。しかしこれを責任を持って指導監督するという条件のもとで、自治会側が高校生の参加を求めてきた。伝統文化を継承するため、という目的である。市民一丸となったまつりをするには高校生は欠かせない。それに何よりも、次にこのまつりを受け継いでいかなければならないのは、今の高校生達なのだ。「地域社会に貢献する人材を育成する意味からも、浜松まつりへの高校生参加は有意義なことだと考える」とは浜松地区公立高校長会長の田中祐司浜松西高校長。伝統文化の継承だけでなく、まつりを通して自分が市民の一人であるという自覚を持つことも求められている。

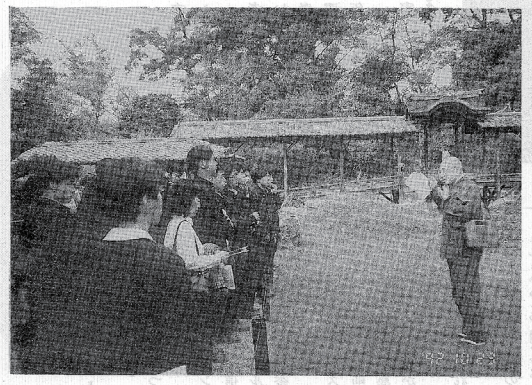
今回の高校生の参加許可は多くの〝まつり好き〟達にかなり歓迎されているようだ。

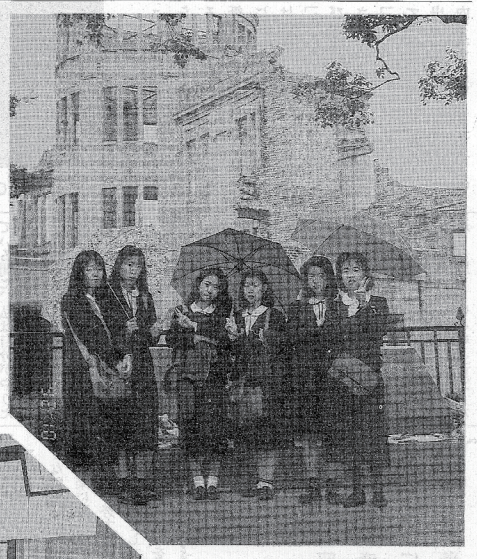
このまつり参加に伴う条件は▽参加生徒は独自のワッペンを着用する▽参加日時は五月三～四日の午前九時から午後九時まで▽飲酒、喫煙など違反が判明した場合には、罰則として停止し、翌年も参加禁止とする……などである。

といってもこれまで無断で参加していた生徒も多いはずである。そんな生徒にとっては、このような条件ができたためにかえって今までよりも責任ある立場に置かれたとも言えるだろう。

参加町数は年々増え続け、今や浜松まつりの盛り上がりは絶頂に達しようとしている。そんな中での高校生参加許可。来年の浜松祭りの善し悪しは高校生の姿勢にかかっているといってよいだろう。

## 行事特集
## やっぱり愉しかった
# 集楽旅行


秀吉ゆかりの高台寺にて


小雨降る原爆ドーム↑
←うどんのどん兵衛にて

### 近畿・山陽方面

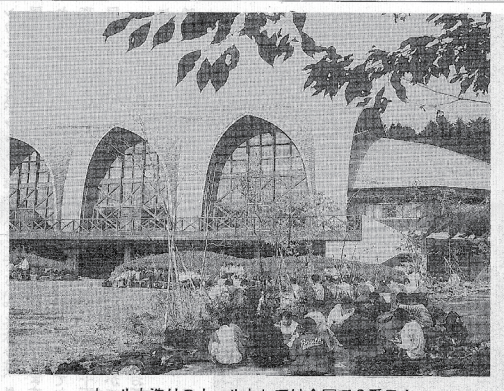
関西方面へは半数の二百二十六人の生徒と十二人の教師が参加した。一日目は新神戸駅から神戸周辺を班別で研修して六甲のホテルへ。二日目は六甲から京都のホテルへの移動を兼ねて行われ、それぞれ班で思い思いの行動をとったようだ。三日目は大半の班が京都市内を研修し、四日目はクラス別で行動をした。中学の修学旅行が京都・奈良だったという人が多いこともあり、神戸・大阪に人気が集まったようだ。

山陽方面へは百二十九人の生徒とロース先生を含めた九人の教師が参加した。三日目までを主に萩・山口・津和野で過ごし、四日目は広島市内を研修した。萩・山口には明治維新ゆかりの史跡が多く、当時の意気盛んな志士たちの面影をしのんだ。

### 東北方面

東北では一足早い紅葉を見ることができた。街路樹はみんな黄色に染まり、山々も鮮やかな色をいろいろ見せている。日本三景の一つ、松島も訪れることができた。芭蕉が、ああ松島や、としか言えなかっただけあって海と島との織り成す景色は絶景だった。

## 好天に恵まれた山の村


オール木造りのホールとしては全国で2番目！

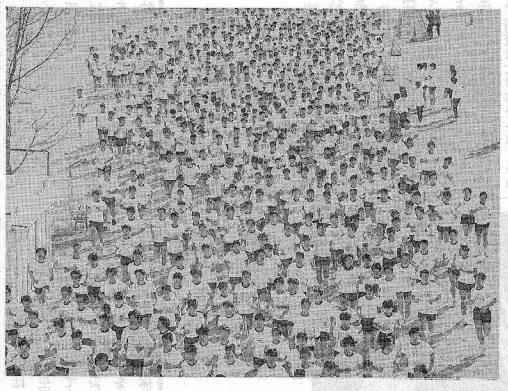

慣れない手つきだが頑張って！


キャンプファイヤーの仮装（火葬？）大会

去る十月二十一日から二十三日迄の三日間、一年生の宿泊訓練が富士山麓山の村で行われた。開村されてまだ間もないので、木造りの多目的ホールも宿泊棟も新しくきれいである。特に、宿泊棟は一つ一つの造りや屋根の色に違いを見ることができ、とても良かった。三日間天候に恵まれ朝、昼は頂上にうっすらと雪をかぶった富士山を、夜は満天の星を見ることができた。

また服装は自由で普段は制服で過ごしている分、私服姿の友達を見ることも新鮮でよかったのではないかと思う。

テレビもラジオもない自然の中で級友と協力し合って三日間を過ごしたことによって多くのことを学ぶことができたのではないかと思う。



## 一年の活躍が目立ったマラソン大会

去る十一月二十六日（木）にマラソン大会が行われた。風は強かったがみんな健闘し、完走者は男子八百九十九人、女子三百九十二人で、男子は去年より二分も記録が伸びた。

個人男子の部

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一位 | 鈴木　守広 | 16 | 陸上 |
| 二位 | 鈴木健太郎 | 10 | 陸上 |
| 三位 | 和久田宏記 | 17 | 陸上 |
| 四位 | 中村　寿晃 | 21 | 陸上 |
| 五位 | 青野　洋 | 19 | 野球 |
| 六位 | 内山　裕隆 | 28 | 陸上 |
| 七位 | 松岡　謙次 | 11 | 陸上 |
| 八位 | 清水　雅俊 | 28 | 陸上 |

個人女子の部

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一位 | 佐藤　路子 | 26 | バスケ |
| 二位 | 脇田久美子 | 13 | バスケ |
| 三位 | 服部　香織 | 23 | テニス |
| 四位 | 吉川　裕子 | 14 | バスケ |
| 五位 | 山内　真琴 | 36 | 水泳 |
| 六位 | 柏木　裕佳 | 27 | 陸上 |
| 七位 | 原　瑠実子 | 18 | バスケ |
| 八位 | 小野田展子 | 10 | バスケ |

## 遠州灘

来年五月に開幕される日本初のプロサッカーリーグ「Jリーグ」誕生に伴い、今や社会現象にまでなりつつあるサッカーブーム。

一九六八年メキシコ五輪の銅メダル以後、国際試合にはなかなか勝てなかった全日本チームが八月のダイナスティカップで優勝、続く二月末から広島で開催されたアジアカップでもスタンド満員の大観衆の中、みごと優勝し、アジアNo.1の座に着いてしまった。この目覚ましい日本サッカーの大躍進ぶりに「Jリーグ」の存在は欠かせない。日本のサッカー技術の向上はこれまで言われてきたことだが、なぜ突然勝てるようになったのか。それにはプロ化されたことによる選手自身の意識改革によるところが大きい。現に九月から始まったプロ初の公式戦、ヤマザキナビスコカップでは「JSL」時代とは見違えるような動きを見せている。そして昨年までとは比べ物にならないほどの観客の質量。ナビスコカップ決勝の国立競技場は、ここは日本かと思うほどの応援だった。

プロとしてファンへアピールするプレーが伺えると同時に、チーム名称にもそれは表されている。例えば、名古屋グランパスエイトは名古屋のシンボル「金のしゃちほこ」と市章である「末広がり八」を採り合わせたもの。サンフレッチェ広島は毛利元就の故事「三本の矢」からサンを取り、イタリア語の弓矢を合わせると言う凝り様。また選手個人でも強烈な個性を放ち、タレント的存在となっている。

選手のプレーとファンの声援とが一体となった究前のサッカーブーム、去年までの競馬人気が来ているだけだと囁かれてもいるが、果たして野球中継に取って代わる日は来るのだろうか。

## 自分の意志を大切に

### 人を語る


早川和宏先生

我が南高の先生方も、苦しい大学受験を乗り越え、楽しい大学生活を充実されていただろう。大学受験の時は、どのくらい勉強したのだろうか。また、大学生活をどのように過ごし、なぜ、教師になろうとしたのか。今回は、社会科の早川先生に、ご自分の体験をお話しいただいた。

では、まず受験勉強についてどうだったのかというと、机に向かっていると安心していたため、けっこう勉強していたそうだ。よく、受験勉強は、一・二年で学んだ事が、ベースとなると言われている。先生も、世界史を選択され、中国の歴史に興味を持たれたために、文学部に進学しようと決心された。このように、受験勉強とは、教科選択した時、いや、入学した時が位が五十以上必要であり、四十六単位以上がギリギリセーフであり、それ以下であると、留年が、決まってしまうそうだ。先生は、四十六単位で、どうにか、留年をまぬがれたそうだ。大学では、高校のように、勉強しろとは、全く言われず、全て学生の自主性に任されている。例えば、服装の面でも、ほとんどの大学が、私服であるし、授業の出欠に関しても、他人が自分に変わって返事してもも、何も言われない。だから、大学生活は、自由で楽しいものであると言われているのかもしれない。しかし、裏を返せば、自由であればある程、自分達一人一人の責任が、大きいのだとも言えるのである。

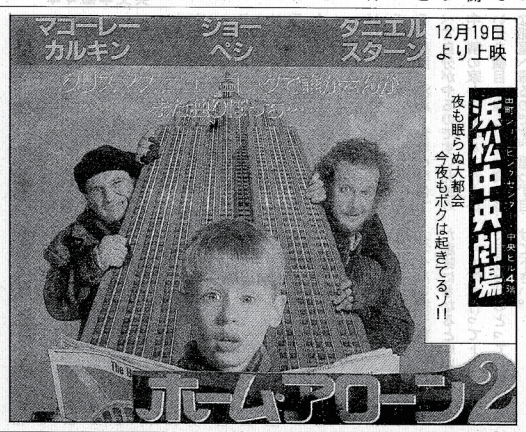
たいていの人は、大学を最終学歴としている。ということは大学を卒業した後、たいていの人達が、社会に出て、就職していくのである。就職といってもこの世の中には、数え切れないほどの職業がある。仕事がある。その中で先生が教師になろうと決心した理由を上げていただいた。一つ目は、小・中・高校と通良く、良い先生に恵まれたため、先生に対するイメージが、良かった。二つ目は、ただ歴史が、好きだった。三つ目は、毎年九月に行われている教育実習が思った以上にうまくいったということであった。夢やあこがれが現実になることは、数少ないのではないだろうか。「ケーキ屋になりたい」「お花屋になりたい」そんな夢も、成長するに従って、自分達の心の中から、次第に消えていってしまう場合が多い。しかし、成長するに従って、また、自分の本当にしたいこと、また、自分の得意なことが、出来てくるだろう。

とにかく、自分のしたい事を、見極め、大学進学や就職を、自分の意志で決めることが、大切ではないだろうか。先生とお話ししてこんなことを考えさせられた。

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎453－1188㈹
旭町店　浜松・旭町（浜松郵便局前）　☎454－0881㈹
高台店　浜松・幸一丁目（ユニー前）　☎473－5188

購買委員会
営業時間
12：50～13：10
15：40～16：00

僕らは行きたい大学へいくのです。
河合塾でいこう
'92冬期講習会受付中
河合塾浜松事務所…☎053(453)5581㈹　〒430 浜松市田町324-3 住友生命浜松田町ビル3F




贈りものに
全国共通図書券
教科書・新刊書籍・雑誌
参考書・各専門図書・地図
文泉堂書店
〒430 浜松市連尺町314－1　TEL454－6358代表

谷島屋書店
YAJIMAYA
本店 〒430 浜松市連尺町309－1 ☎<053>453－9121㈹
リブレモール●鍛冶町モール街
松菱店●松菱デパート8階
遠鉄百貨店●5階
駅の谷島屋●コスタ内
メイワン店●砂山町
駅南店●領家町
なかざわ店●中沢町
毎日ボウル店●有玉南町
浜団地支店●遠州浜2丁目
浜松医大売店●半田町
聖隷病院売店●住吉●三方原

社会参加活動報告

# 小さな一歩、大きな歩み

## 野焼き　遠州灘に太古のロマンを見る！



浜松市米津町の福祉施設、浜松こども園で十一月十四日の夕方、「野焼きと能楽鑑賞のタベ」が開かれた。これは同園内の小規模授産所みなみ作業所と浜松おもちゃ図書館の開設十周年記念行事である。

この催しには我が校の文化委員、生徒会役員、地歴部員などが参加した。また、こども園周辺のみなみ作業所のメンバーやボランティア団体なども参加した。

今回焼いたのは縄文式土器で九月に作って乾燥させたものである。縄文式土器は手作りのため概して厚く、焼成温度が低いために灰黒色を呈するようだができあがった作品のほとんどは赤褐色だったようだ。

すっかり日が暮れると、米津浜で深さ約五十センチの穴の中に並べられた作品と材木に文化委員長の高橋君（26）ら六人がたいまつで火入れを行った。また、火入れ後、浜松護城太鼓の皆さんが、寒空を焦がす炎を背に太鼓を打ち、太古のロマンをかもし出す雰囲気の中、炎は増々赤々と燃え上がった。

同園の庭に場所を移して行われた能楽では、浜松市内の謡曲愛好団体「やおのまの会」が特設舞台に登場した。舞囃子（まいばやし）、船弁慶（ふなべんけい）などを披露し、護城太鼓とは対照的に幽玄な鼓の響きで観衆を魅了した。



## 交通安全ポスターで　小山(16)さん最優秀賞

平成四年度　秀賞に、小山真輝（16）さんの作品が選ばれた。これは、横断歩道を渡るカモの親子をウサギ学校生徒指導連合会「交通安全ポスター」の最優り、それに「やさしさ忘れずに」の言葉が添えられているというやさしさ溢れる作品となっている。その他優秀賞には、奥城香登里（15）、永沼美樹（15）、影山明子（15）さんの作品がそれぞれ選ばれている。

また「高校生による自転車通学マナービデオコンクール」で放送部と交通委員会共同制作の作品が、優秀賞に選ばれた。




# 異文化体験報告

今回はアメリカのノースキャロライナ州のチャペル・ヒル市に四年間滞在していた中尾知子さん（15）に貴重な体験を報告してもらった。



Chapel Hill High School（最後列右側が中尾さん）

もしかしたら、今この記事を読んで下さっている人の中に、私が時計を見つめてボーッとしているのを見た事がある人がいるかもしれません。時々私は、今はまだみんな寝てるだろうな、今頃はソファーで寝そべってテレビを見ているのかな、それとも宿題をやっているのかな、と思い巡らして、ハッと我に返る事が幾度もあります。

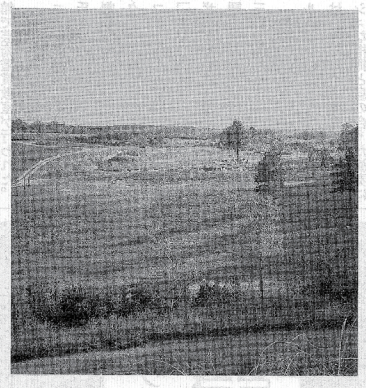
北アメリカのノースキャロライナ州に、私は小学校を卒業してからの四年間、父の赴任で滞在しました。

なだらかな、どこまでも続く台地に、見渡す限りの緑、散歩をしている人達は、出会う人々誰にでも挨拶をします。晴れた日曜日には、お年寄りが庭のゆり椅子でひなたぼっこをします。四季があり、夏は暑さが、冬は寒さが浜松よりも厳しかった他は大した違いはありませんでした。治安も良く、大変のんびりとした、本当の田舎でした。

そしてそんな田舎で、私は現地校へ通い、英語を学び、大変のんびりと過ごしました。

長い夏休みを利用して、家族で旅行などにも出かけましたが、やはり一番心に残っているのは、友達と過ごした大切な時間です。

夏の暑い日には、学校が終わるとみんなで近くの湖に、お菓子を持ち合って集まりました。そうして、そのお菓子を頭の上に乗せて、湖の中央のいかだまで泳ぎつく競争をしたりしました。秋になると、紅葉の中を友達五、六人で湖の回りをジョギングしました。



Chapel Hill 市の郊外

友達の誕生日が来ると、他の友達とこっそり集まってケーキを焼き、ろうそくに火をともしてその子の家に押し掛けました。出来上がったケーキは本当なら10cm程になるはずでしたが、何と5cmにも達しませんでした。生クリームでその分厚さを出したので見てくれもベトベト。でも当の本人は大変喜んでくれて、ケーキもみんなでペロリと平らげてしまいました。友達に何か辛い事があった時、例え彼女が電話してきたのが夜の十時でも、それから彼女の家に泊まりに行かせてくれた私の両親、今更ながら感謝しています。

そして、最もうれしかったのが、十二月十一日の私のアメリカで最後の誕生日。

その日の最後の授業のコンピューターのクラスが始まってから10分もした頃、私の友達のある一人が教室に入って、小さな紙切れをコンピューターの先生に見せました。しばらくして私は先生に、

「知子、あなたはある先生に呼び出されているわ。早く行きなさい」と言われ、私の友達が「さ、早く私の後ろに若いて来て」と言うままに、私は教室を出て、校内の、ある一室へと案内されました。そしてそこのドアを開けると同時にパ・パーン、とクラッカーの鳴る音が聞こえて、次に私が目を開けた時、私の友達ほとんどがその一室に集まっていて、例の「ハッピー・バースデー・ツー・ユー」を歌ってくれました。手作りのチョコレートケーキも、誕生日のカードもプレゼントもうれしかったけれども、何よりも、みんなが祝ってくれた事がものすごくうれしかった。聞けば、ある一人の先生がメモを書いて、みんなが授業を抜けられるようにしてくれたのだと言う。この日私は家に帰って、10ページ以上の長い長い日記を書いた。

このようにアメリカで過ごしている間に、私は自分がやりたい事を山ほど見つけました。アメリカの学校は、社交するため、英語を習うために行っていたけれど、日本は違う。自分がやりたい事を実現させる準備をする所だと思う。頑張れば頑張った分だけの手応えがあり、どんな人でも学ぼうという意志さえあれば何らかの形で必ず学ぶ事ができる。そんな国に生まれ、学べる事に、感謝しなければと、学びたくても学べない国に住む人々を思う時に思いまず。

よく他人から、アメリカで楽しんでいい思いをして帰って来たと言われるけれども、それは違うと思う。いろいろ苦労したし、嫌な事も辛い事も山ほどあって大変でした。そして、日本の人達が、中学校で二年間授業を受け、受験をした事が一つの学び方であったように、私がアメリカで過ごした事も、一つの学び方だったのだなと、このごろ思うようになりました。

# 更に光輝き行け

## ふれあいコンサート

十一月十五日に、浜松市福祉文化会館ホールで、ふれあいコンサートが開かれた。

ふれあいコンサートは、障害者と健常者との交流や「ふれあいの輪」をモットーに、各障害者団体に呼び掛けを行い、本年四月に実行委員会を結成し、半年かけて準備を進めてきた。

本校吹奏楽部は「ディズニーメドレー」や「日本民謡メドレー（ソーラン節～鹿児島小原節～八木節）」など、子供からお年寄りまで楽しめる曲を披露した。

最後は、テーマ曲「明日へ」を全員で大合唱し、成功のうちに幕を閉じた。

このふれあいコンサートには、吹奏楽部の他に、23日Rの泰澤友和君を代表に六人の南高生が参加し、中でも泰澤君達は、ふれあいコンサート実行委員会参加団体として、舞台の垂れ幕を製作するなど、大いに活躍した。

このふれあいコンサートは、様々な障害にもめげず、一生懸命に音楽に取り組む人々の姿だけでなく、努力の大切さや能力の限りなさ、そして障害者と健常者の違いのなさを教えてくれた分で「ただいま」「お帰り」と言うことはありませんが淋しいものです。しかしこれも経験なのです。持ったり少しだけ長く生きている人間から言わせてもらえば、人生無駄になる経験というものはありません。振り返って回り道をしてきたと思えることでも、その中から何かをつかめればよいのです。その経験を生かすも殺すも自分自身なのです。今の日本のシステムの内では、二十才前後の時期に、社会的身分が保障され、時間がたっぷりあると言うのは大学生以外考えられません。

そうした点から考えても大学は是非行って欲しい所です。入学することができれば、卒業することは簡単です。大卒という学歴を名札に示し、堂々と表を歩けるでしょうが、大切なのは大学で何を身に着けたかなのです。大学は自由。ピアスをしようが、指輪をしようが、モヒカンにしようが一向にかまいません。だから恐ろしい。自分で何かを始めなくては何も変わりはしないのです。人がこうだからではなく、自分はこう思うと言うのが大切。大学へ入って勉強しろとは言いません。大学は勉強したい者が勉強する所だからきるもの、その中に価値を見い出せるものを発見して下さい。

それがその人の財産になり、大学へ高い授業料を払って行った意味にもなると思います。皆さん大学へ行って下さい。そして自分だけのとっておきを見つけて下さい。

# プルタブ回収に協力しよう

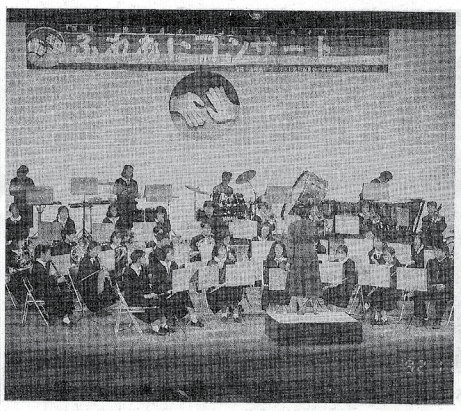
二学期から社会参加委員会と「幕の根」でプルタブと使用済みカードなどの回収を始めた。現在プルタブが約二〇〇枚と、多くの人達の協力で集めることができた。

プルタブは、缶公害防止連絡協議会に送り、ここで換金され、そのお金で車イスを購入できる。また、使用済のテレフォンカードなどは、アクトン事務局に送り、大阪の市場で換金される。そしてその金は国連難民高等弁務官事務局へ送られ、難民救済のために使用される。

プルタブ回収状況は、クラスによって様々で、特に21、31、32、38日Rの協力が目立つ。生徒会側は、他の人も自分の飲んだ物だけでなく道に落ちている物も拾って、町をきれいにしてほしいと、生徒に呼びかけている。

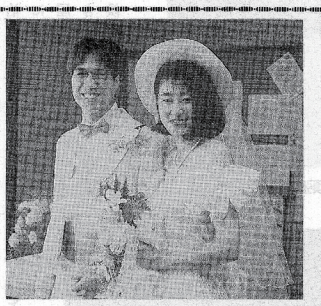
社会参加委員長は次のように語っている。

「この一学期間たくさんのプルタブや使用済テレフォンカードなどを集めることができました。皆さんも辺りの人達に呼びかけて下さい。冬休みは、外出する機会も多いと思いますので、外出先や家庭で集めておいて下さい。プルタブ百四十万個で車イス一台を買うことができるので、今後とも御協力お願いします」



# 校内トピックス

## マーケン先生　ゴールイン



マーケン（旧姓増田）先生が七月二十五日に結婚式を挙げられた。相手はアメリカ人の男性。変な人？だけど感謝の気持ちを素直に表すことができる人だという。

先生が大学生だった頃、近くの教会で仕事の手伝いをしていた今の旦那さんと知り合い、お互いよく教会と大学とを行き来したのがきっかけ。独身の頃と一番違うことは何ですか、と聞いたところ、「料理を作る張り合いがあること」と答えて下さった。お料理をよく作るそうだ。

お互いバランスよくよりかかっていけるのが理想。どこの国に行っても、自分達のペースで暮らしていけるようになりたい、と夢までも国際的だ。

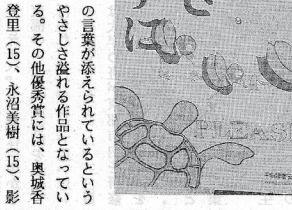
末永いお幸せを祈る。

## イギリスより　高校生来校

十月二十八日から十一月八日の間、イギリスのMaiven市から高校生が来日した。彼らはユネスコの関係の、日本国際生活体験協会という機関を通じて来日した福祉関係の奨学生だ。ホームステイをしたり高校をまわったりして日本の生活を体験したりして帰国の途についていった。

三十日には本校に来校した。校内を見回ったり、授業を受けたりした後での南校の印象は、親切、友好的、きれい、私達に興味が深そう、等々だった。また浜松市の印象を聞いてみたところ、ゴミが少ない、人がいい、駅が大きい、という返事が返ってきた。彼らの住むMaiven市はLondonから北へ二百四十キロいった所で、人口三万五千人ののどかな町。それで浜松が大きく見えたのだろう。

二週間たらずの短い来日だったが、今まであまりなじみのなかった日本を知るよい機会となったことだろう。また本校の生徒にとっても、外の国の自分達と同じ高校生を知る良い機会になっただろう。

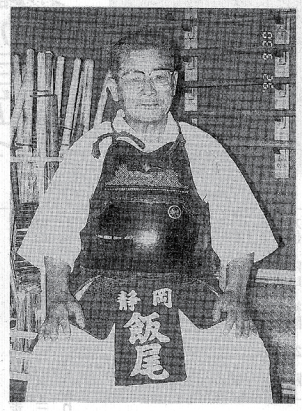


# 生涯現役

## 剣道教士　飯尾巴先生のこと

昭和六十年から本校の剣道部外部講師として熱心に指導される飯尾巴先生を紹介したい。

先生は昭和二十九年浜松工業高校で化学を担当するかたわら、剣道部の顧問となったことをきっかけにして生徒と共に汗を流しながら昇段して六段となり、剣道教士の称号を得てその後文部省の剣道の検定試験も合格された。また先生は、剣道もスポーツ化したため人間形成の修練の場であることは忘れられているようだ。わがままな心を去り無心になって修練することが剣道には必要であるとおっしゃっていた。



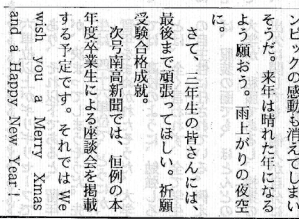

# 横井さん

## 三十年間ありがとう

本校創立以来三十年間、本校一筋に用務員として勤めていらっしゃる横井さんに、創立三十周年記念芸術鑑賞教室で、感謝状が送られた。そこで新聞部では、横井さんに感想などを聞いてみた。

「この南校が出来た頃には、職員が二十名足らずだった。そのうち、二～四人は、自動車で、他は、バイクや、一時間に一本しかないバスで、通勤していた。学校周辺は、まだ舗装されず、今と比べると、大変不便であった。そのために、給湯室の場所にあった宿直室に、たくさんの職員が一緒に泊まり、ごはんを食べたりしていた」

このようにお話を伺うと、今と昔では、この学校も周辺もかなり変化していることがうかがえる。最後に、「この学校の生徒は、素直で非常に良いが、元気が足りない」とおっしゃっていた。



表彰される横井さん

# 編集後記

まもなく一九九二年も暮れようとしている。松井の巨人入団をどう思うか、宇野の立場をどう思うか、トウカイテイオーの復活を、チャボと清志郎の関係を…。それぞれ思ったことだろう。「一九九二年はひどい年」とは、エリザベス女王が思ったことである。それは日本にもあてはまる。世間は不況を叫び、女子学生が求人不足を嘆き、例のごとく政界では不祥事が相次ぐ。暴力団新法にまつわる事件もあった。まったく一度のオリンピックの感動も消えてしまいそうだ。来年は晴れた年になる願おう。雨上がりの夜空に。

さて、三年生の皆さんには、最後まで頑張ってほしい。祈願受験合格成就。

次号南高新聞では、恒例の本年度卒業生による座談会を掲載する予定です。それでは We wish you a Merry Xmas and a Happy New Year!

# 円舞曲

渥美勇

冬の星座は寒い夜空に
一層輝きます
暗き夜に見事に輝く
一つの光りは小さい
けれど　よりそえば夜空に
星の曲を奏でる
冬の星達よ
更に光輝き行け

# 大学リポート

## 大学生活秘話



東京水産大学
水産学部4年
芥川昌也

大学生になると、たいていの人は親元を離れます。

まず家賃ですが、一か月6畳一間で3万円以上、トイレがついて4～5万円、風呂付きになると6万円以上になってしまいます。更に、食費が一日千円として1ケ月3万円、電気や電話代に1万円がかかり、計7万円以上は軽く越えることとなるでしょう。これだけではなく、コンパやサークル活動などの交際費に1～2万円かかるので月10万円仕送りしてもらっていても生活は楽ではありません。

このため大抵の人はアルバイトをして生活費を稼いでいます。大学はこのような金銭的なものだけでなく、あらゆることにおいて自分で決定することができます。それに伴う責任もまた背負うことになり、このことは大学を出てからの生活をシュミレートすることにもなりま



京都外国語大学
英文学部4年
岡本直哉

単科大学ということもあり、キャンパスは狭い。およそキャンパスという名のイメージには程遠いように思います。しかしそれも住めば都。（京都は住まなくても都だが）よい点も多くあり、私個人としては大変気に入っています。大学内での公用語はもちろん関西弁。

「何でやるねん!!」「あほちゃう?」「ごっつおもろかったなあ」等、英語以外の言語も自然のうちに身についてしまいます。

いま、世の中は、高齢化社会になりつつある。こうした中で、お年寄りや心身に障害を持つ人もまた、そうでない人も、同じ社会の一員として互いの違いを認め合いながら共に生きる社会を築いていきたい。また、そのためには私達がこのような機会に積極的に参加することが大切ではないだろうか。

そこで、私達はすばらしい詩を見つけた。それは渥美　勇さんという人の詩である。

渥美さんは身体に障害を持った人々が働く、三幸共同製作所に勤務しながら自活し、こんなすてきな詩を書いているので、最後に紹介しよう。




# 自己発見の場

ちょっと得した気分。（そんな訳ないだろう）そしてこの関西弁に当然ついて回る―まるで年末買い物をするとかならずっていてくる来年のカレンダーのように―〝ぼけ〟と〝つっこみ〟があります。関西人は毎日これなしでは尋常な生活ができないのではというくらいに、ぼけ、そしてつっこみます。これ本当。かくいう私もこの四年間でこの〝ぼけ〟と〝つっこみ〟を体得し、今では関西人より関西人らしいと言われるまでになりました。ああ環境とはげに恐ろしい。しかし考えてみると大学とはそういった所なのかもしれません。つまり今まで非常に狭い世界で生きてきた人間がいろいろな人・物に触れてみる。そうした意味から、もし経済的に許されるなら私は一人暮らしをお勧めします。

〝一人暮らし〟この言葉に皆さんはどんな印象をお持ちですか？夜中に帰っても誰も文句を言わない。異性を部屋に連れ込めるなど（例えばですよ！・エ・ハ。）しかし〝一人暮らし〟は同時に〝独り暮らし〟でもあるのです。光りがあれば影がある。掃除・洗濯・食事の準備すべて自分がやるのです。北風の中、隣の家からもれるあたたかい光を横目に誰もいない真っ暗な部屋へ帰るのです。思わず自分で「ただいま」「お帰り」と言うことはありませんが淋しいものです。しかしこれも経験なのです。持ったり少しだけ長く生きている人間から言わせてもらえば、人生無駄になる経験というものはありません。振り返って回り道をしてきたと思えることでも、その中から何かをつかめればよいのです。その経験を生かすも殺すも自分自身なのです。今の日本のシステムの内では、二十才前後の時期に、社会的身分が保障され、時間がたっぷりあると言うのは大学生以外考えられません。

そうした点から考えても大学は是非行って欲しい所です。入学することができれば、卒業することは簡単です。大卒という学歴を名札に示し、堂々と表を歩けるでしょうが、大切なのは大学で何を身に着けたかなのです。大学は自由。ピアスをしようが、指輪をしようが、モヒカンにしようが一向にかまいません。だから恐ろしい。自分で何かを始めなくては何も変わりはしないのです。人がこうだからではなく、自分はこう思うと言うのが大切。大学へ入って勉強しろとは言いません。大学は勉強したい者が勉強する所だからきるもの、その中に価値を見い出せるものを発見して下さい。

それがその人の財産になり、大学へ高い授業料を払って行った意味にもなると思います。皆さん大学へ行って下さい。そして自分だけのとっておきを見つけて下さい。